

2008 年 4 月号 目次

【トピックス】

食品等の苦情品検査(その2)・・・・・・・・・・・・・・・・	1
アレルギー物質を含む食品の検査結果	9
医動物検査	11

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 3月	13
感染症発生動向調査における病原体検査 3月	16

【検査結果】

由来別病原菌検出状況 3月	17
残留農薬検査(平成19年度10月~3月分)	18

【情報提供】

衛生研究所 WEB ページ情報(19年度3月分)	20
--------------------------	----

食品等の苦情品検査(その2)

平成19年度下半期に、区福祉保健センターに届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために当所へ搬入された検体のうち、理化学的検査を行った検体は55件82検体でした。本年度は食品に関する偽装事件等の影響により苦情品の件数も増加しました。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多くみられました。主な検体の検査結果は次のとおりです。

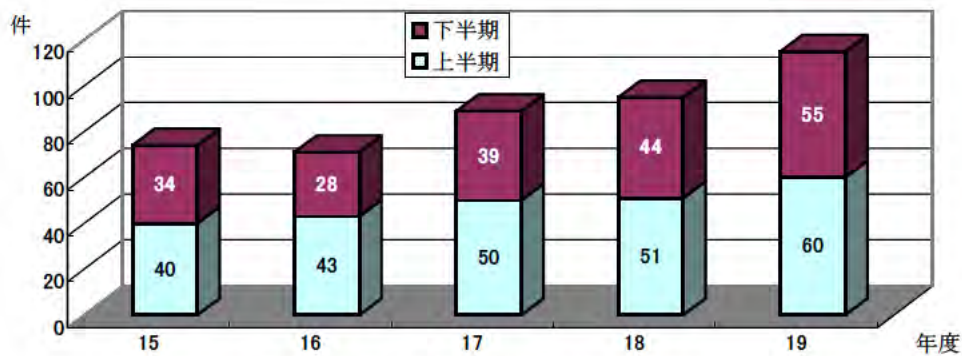






図 苦情品検査受付件数の推移

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
しゅうまい	金属片が入っていた。 	外観 性状 顕微鏡 顕微鏡 顕微鏡 結果	大きさ19mm×0.4mm、厚さ0.02mm、重さ2.8mgのテープ状の金属片であった。 磁性を有する。 幅と厚みが均一で表面は比較的滑らかで、長い方向にスジが走っていた。側面の所々に破損部を認めた。 鉄とクロムを認めた。 形態等から金属タワシの一部と推定された。
卵焼き	卵を焼いていたら金属の溶けた固まり(水銀様なもの)を見つけた。 	外観 性状 顕微鏡 顕微鏡 結果	大きさ直径0.2mm～1mm、重さ1mg以下～4.6mgの銀色の金属球を5個認めた。 磁性は認めない。 表面は滑らかで、大きな球は小さな突起を認める。 スズを認めた。 金属スズの融けた破片と推定された。
サラダ	プラスチックのフィルム様のものが入っていた。 	外観 顕微鏡 赤外線法 結果	大きさ49mm×12mm、重さ7.8mg。四角い無色透明なフィルム状のもの。 真直ぐな縁とギザギザの縁を認めた。 ポリプロピレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂フィルムの破片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
鶏の味噌煮	プラスチックの破片が出てきた。 	外観 顕微鏡 赤外フィルム法 結果	大きさ24mm×28mm、重さ109mg。不定形で一部分に金色の丸模様(径1.5mm)のある無色透明なフィルム片。 縁の一辺にノコギリ状のカットを認めた。また、フィルム片の先端にヒートシールの部分を認めた。 フィルムの外側はナイロン、内側はポリエチレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 ナイロンとポリエチレンの多層フィルムの袋の破片と推定された。
チーズパン	パンを食べていたところ、口から金属の破片が出てきた。 	外観 性状 顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	長さ26mm及び15mm、幅0.7mmの金属様のテープ状のもの。 磁性を有する。 幅と厚みが均一で表面は比較的滑らかで、長い方向にスジが走っていた。側面の所々に破損部を認めた。 鉄、クロム、ニッケル、マンガンを認めた。 金属タワシの破片と推定された。(対照品の金属タワシと組成が類似していた。)
栗どら焼	食べたところシンナー臭がした。 	官能検査 酢酸エチル エタノール 細菌検査 結果	酢酸エチルとアルコールの臭いを認めた。 43ppm 3000ppm 酵母を認めた。 発酵による酢酸エチルとアルコールの生成と推定された。
食パン	食パンの縁の部分に黒いものがついていた。 	外観 生物顕微鏡 結果	食パンの一部の縁に、黒色部分を認めた。 黒い部分を生物顕微鏡で観察すると、不定形の黒色物を認めたが、カビの菌糸、孢子等は認めなかった。 カビではない。何かは少量のため不明。
カツ弁当	カツ弁当を購入し、自宅に持ち帰って食べてる最中に口中に異物を感じた。取り出したところ人の爪のような物体であった。 	外観 顕微鏡 赤外KBr法 結果	大きさ7mm×1mm～12mm×2mm、重さ2mg～7mgの白色の爪様の固まり。 三日月型の湾曲した硬い固まり。弧の外側は滑らかな曲線をしていた。内側の部分は剥ぎ取られた様な、縁が波状の薄片になっていた。表面は平滑で、反対面の弧の縁に縦縞が認められた。内側は横に段になり縁は薄片状になっていた。 爪と同様なタンパク質の吸収スペクトルを認めた。 ヒトの爪の破片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
赤ぶどう(レーズン) 	レーズンをヨーグルトに混ぜて食べていたら砂を食べてるような違和感を感じ、よく見ると泥の固まりのようなものが入っていた。	外観 光学透過顕微鏡 走査電子顕微鏡 真菌検査結果	ティッシュ上に大きさ10mm×10mm、15mm×10mm、10mm×5mmの黒い部分を認めた。またラップの上には1~2mm大の黒い斑点を多数認めた。 生物顕微鏡でラップの上の黒い斑点を水に溶かして観察したところ、多数のカビの菌糸と胞子を認めた。 走査型電子顕微鏡でティッシュの黒色部分を観察すると多数のカビの胞子と菌糸を認めた。 <i>Aspergillus</i> 属(<i>A.niger</i>) 異物はカビの塊と推定された。 カビの種類: <i>Aspergillus</i> 属(<i>A.niger</i>)
だんご 	だんごにプラスチック片が入っていた。	外観 顕微鏡 赤外フィルム法結果	大きさ17mm×7mm、重さ11mgの白色フィルム状の破片。 所々にヒビ割れを認める。 ポリスチレン樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリスチレン樹脂製のフィルムの破片と推定された。 対照品のトレイと同様であった。
ロッゲンブロー(パン) 	パンの断面に白い繊維状のものがたくさんある。気持ちが悪い。繊維状のものは何か？	外観 性状 ヨウ素デンプン反応 顕微鏡 光学透過顕微鏡 結果	パンの切り口に大きさ2~5mm、幅0.3mmの白い繊維状の固まりを多数認めた。 水に浸すと、ふやけてばらばらに崩れた。 陽性 拡大すると透明な粒子の集まりであった。 ヨウ素デンプン反応を示したところは、多数のデンプン粒を認めた。 パンの切りくずと推定された。
焼き海苔 	焼き海苔に大きな異物が付着していた。	外観 顕微鏡 赤外KBr法結果	大きさ43mm×8mm×4mm、重さ0.8gの淡黄色の弾力のある固まり。異物は焼き海苔の中に埋もれており、一部が露出していた。 片面は平らで、反対面は加工のある縁を認める。片側の縁は凹凸のちぎれた状態を認める。また、両端もちぎれた様な状態を認める。 シリコン樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。 シリコン樹脂の破片と推定された。
長ネギ 	ネギを刻んだところ、石油臭がした。	官能検査 GC-MS 軽油結果	数名(6名)で臭いを嗅いだところ、石油臭を認めた。 ノルマル炭化水素C11~C20を主成分とする炭化水素を認めた。軽油と同様な成分構成であった。 細切りネギ:150ppm、短冊薄切りネギ:250ppm 軽油(ディーゼル油)による汚染と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
食パン 	食パンの耳の部分に赤い細いテープが付着していた。	外観 顕微鏡 赤外フィルム法 結果	大きさ5.6cm×4mm、重さ23mgの赤色のテープ状のもの。食パンの耳の部分に一部埋没して、付着していた。 赤色テープの一面に粘着性物質を認めた。 ポリプロピレン樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂テープの破片と推定された。 参考品の赤色テープ部分と一致した。
竹の子の水煮 	開封して、竹の子をカットしていると異臭に気がついた。さらに湯通しをした際、バターのような臭いがした。	官能検査 pH GC-MS 結果	対照品と比べると、わずかに臭いが感じられた。 4.8 エーテル抽出物を測定したところ、酢酸及び酪酸が認められた。 対照にはない酪酸が認められたことより、臭いの原因は酪酸と思われたが、詳細は不明。
生食鳥肉 	鳥肉の表面に多数の青い固まりを認めた。	外観 顕微鏡 赤外KBr法 鉄の定性反応 結果	大きさ1～3mm×1mm以下の青色の硬い固まり十数個と茶褐色の1～2mmの固まり5個。いずれも鳥肉の表面に付着していた。 青色異物は鋭い割れ面が認められた。また、多数の細かい気泡が内部や表面に認められ、さらに白色と黒色部分が認められた。 青色異物はガラスと同様な吸収スペクトルが認められた。 陽性。茶褐色の異物は、塩酸に溶けて黄色い溶液となった。さらにチオシアン酸アンモニウム溶液で赤色になった。 青色異物は加工されたガラス片と推定された。また、茶褐色の異物は鉄サビと推定された。(ハウロウ容器の破片)
メロンゼリー 	容器のフタの内側に黒い汚れと指紋跡がついていた。	外観 顕微鏡 結果	フタの内側部分に黒い汚れを認めた。 フタのシールを剥して、シールの粘着面を見ると、黒い汚れが認められた。 容器のフタの内側(食品に接触する部分)でなく、外側に貼られたシールの粘着面が汚れていた。
メンチカツ 	毛の様なものが入っていた。	外観 顕微鏡 走査型電子顕微鏡 結果	長さ2～8mm、太さ40～160μmの褐色及び黒色の毛を10本前後認めた。 毛が生えている組織を認めた。 毛根及び小皮紋理(キューティクル)を認めた。断面に髄は認められなかった。 動物(豚または牛)の毛と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
チーズケーキ	毛髪のようなものが入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 結果	長さ47mm、太さ30～50μmの黒褐色の毛髪状の繊維。異物の半分以上、チーズケーキ内に埋もれていた。 毛の状態：直状(直毛)、色：黒褐色、毛先：半円形、毛根部：自然脱落毛、髓：無髓、小皮紋理：軽い横行波状、横断面の形状：円形。 人の毛髪 of 自然脱落毛と推定された。
小籠包	硬い異物が入っていた。 	外観 燃焼性 マイクロスコープ 赤外KBr法 結果	大きさ1mm×2mm～2mm×5mm、重さ0.6～5.7mg。4個の白色～薄褐色の硬い固まり。 加熱するとタンパク質を焼いた臭いを発して黒くなり、さらに加熱すると白色の灰分が残った。 片面は表面が細かな模様を示し、反対面は滑らかであった。 骨に類似した吸収スペクトルを認めた。異物を灰化したものは、骨を灰化したものと類似したスペクトルを認めた。 骨の破片と推定された。
ウォッシュタイプチーズ	お歳暮に贈られたチーズが腐敗している。食べようとしたところ腐敗臭がして食べられなかった。 	外観 官能検査 GC-MS 結果 参考	チーズの表面は淡褐色のネバネバしたもので覆われていた。(対照品と同様) ウォッシュタイプチーズの特有の匂いを認める。収去した対照品と同様な匂いで、かなり強い匂いを認めた。 酢酸、プロピオン酸、酪酸、吉草酸、カプロン酸等の脂肪酸を認めた。対照品と同様であったが、量的には苦情品のほうが多かった。 対照品と比べ発酵が進んだチーズと推定された。 ウォッシュチーズは、納豆やくさやに通じる発酵食品独特の香りを放す。
ビスケット	ビスケットを食べている最中に、口の中でカリッという音がして、出したところ金属片を発見した。 	外観 マイクロスコープ マイクロナライザー 結果	大きさ7mm×5mm×2mm、重さ0.18g。銀色の金属の固まりで、片面は金属光沢をしていた。 歯の詰めものの様な加工跡が見られた。 銀、パラジウム、銅、金を認めた。 形状及び組成から、歯の詰物と推定された。
チマキ	チマキの中に髪の毛が入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 結果	長さ41.2cm、太さ60～70μmの茶褐色の毛髪状の物質。 毛の状態：直状(直毛)、色：茶褐色、毛先：斜断状、毛根部：自然脱落毛、髓：根元から中心部分は無髓、毛先部分は細い点断続状、小皮紋理：軽い横行波状、横断面の形状：円形 人の毛髪 of 自然脱落毛と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
あじの開き	あじの開きに毛が多数ついていた。  	外観 顕微鏡 光学透過顕微鏡 走査電子顕微鏡 結果	あじの開きの表面に長さ5mm～25mm、太さ40～90μmの白色の毛髪状のものを多数と黒色数本を認めた。その他に毛様の固まりを2個認めた。 毛の状態：軽い波状、色：白色多数、黒色数本、毛先：針状、毛根部：自然脱落毛、髓：連続状、小皮紋理：軽い横行波状、横断面の形状：円形 また、毛様の固まりは動物の毛と細かな繊維の集まり（綿ごみなど）が魚の油脂で固まったものであった。 髓は太く、犬特有の多角形空胞の石垣状の配列を認めた。 小皮紋理は軽い横行波状であった。また、太い髓を認めた。 異物の形態から、犬の毛と推定された。
つみれ	つみれを食べて1歳児が発疹がでて顔がはれた。	ヒスタミン 結果	つみれ：0.33g/kg 原料のイワシのすり身：1.4g/kg すり身の絞りの残品：1.6g/kg ヒスタミンによるアレルギー様食中毒と推定された。
豚肩ローススライス	硬い固まりが入っていた。 	外観 燃焼性 赤外KBr法 結果	大きさ9mm×6mm、厚さ1.5mm、重さ58mgと大きさ6mm×3mm、厚さ1.5mm、重さ17mgの白色の硬い固まり2個。 炎で加熱すると、タンパク質を焼いた臭いを発して黒くなった。さらに、加熱すると白色の硬い固まりが残った。 骨と同様な吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは、骨を灰化したものと同様のスペクトルを認めた。 骨の破片と推定された。
チョコレート	パンがいつもより硬い、古いのではとの疑いがもたれた。	外観 顕微鏡 結果	焼色が濃く、パンのきめが粗い。 きめが粗い。 パンの焼け方が強いため、参考品より硬いと推定された。（パンの焼け方の違いにより、食感に差が生じたものと考えられた。）
調味梅干	樹脂状の異物が梅干に付着していた。 	外観 顕微鏡 赤外KBr法 結果	長さ28mm×幅2～5mm、厚さ2mm、重さ70mgと6mm×2mmの2個の白色のプラスチック様の固まり。 片面は湾曲しており、反対面は平面状で、先端は丸く、末端は細くなっていた。 エチレン - 酢酸ビニル樹脂に類似した吸収スペクトルを認めた。 形状等より、熱で溶けたエチレン - 酢酸ビニル樹脂が固まったものと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
カジキマグロ	酒をふって冷蔵保管しておいたカジキマグロを焼いて食べたところ機械臭がした。	GC-MS キシレン 結果	n - Hexane抽出物を測定したところ、キシレンを認めた。 7ppm 異臭はキシレンによるものと推定された。
大根 	給食室で大根の皮むき中に異物感を感じ、見たところ金属様異物がめり込んでいた。	外観 性状 顕微鏡 マイクロスコープ マイクロナライザー 結果	大きさ2mm×2mm、重さ1.6mgの銀色金属様の硬い固まりであった。 磁性を認めない。 片面は銀色光沢をしていた。反対面は一方向に多数のスジが認められた。 アルミニウムの元素を認めた。 削り取られたアルミニウムの破片と推定された。
和からし 	からしをチューブから搾り出したところ、チューブの口元に毛髪様異物が混入しているのを見つけた。	外観 顕微鏡 マイクロスコープ 光学透過顕微鏡 結果	長さ44mm、太さ0.12mm。黒色の毛様のもの。 毛の状態：波状、色：黒色、毛先：切断されていた、毛根部：自然脱落毛、小皮紋理：軽い横行波状。 毛根を認めた。先端は切られた状態であった。(製造メーカーで燃焼試験に使用したため。) 人毛と推定された。
ウインナー 	調理をしようと、包丁で切ったところ、切り口の一部に砂粒状異物を見つけた。	外観 顕微鏡 マイクロスコープ 光学透過顕微鏡 結果	ウインナーの一部に灰色の細かな物質の点在が認められた。 拡大すると0.5mm以下の黒～褐色の破片を多数認めた。 褐色の破片を顕微鏡で観察すると植物細胞を認めた。また、製造所で製品に使用したコショウ中の破片も同様の植物細胞を認めた。 原料に使用されたコショウの固まりと推定された。
海藻サラダ 	児童がサラダを食べていたところ、口の中から棒状の金属片を見つけた。	外観 顕微鏡 マイクロスコープ マイクロナライザー 結果	大きさ7mm×2mm×1mm、重さ21mg。銀色の金属様の固まり。 片面は横に平行の等間隔のスジが認められた。反対面は波状の等間隔の凹凸を認めた。 アルミニウムの元素を認めた。 組成及び形状からスライサーの削り取られたアルミニウムの金属片と推定された。
ハンバーグ 	食べたところ口のなかに針金が刺さった。	外観 磁性 顕微鏡 マイクロスコープ マイクロナライザー 結果	長さ35mm、太さ0.32mm、重さ21.5mg。銀色の針金状の金属。 弱い磁性を認める。 異物の曲がりの周期は4mmであった。ザルの目の間隔は2mmで、曲がりの周期(4mm)と一致した。 鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。参考品のザルの針金の組成と一致した。 ステンレス製の針金の破片と推定された。参考品のザルの針金に酷似していた。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
チョコレート	食べていたら硬いものが出てきた。 	外観 顕微鏡 赤外KBr法 結果	大きさ22mm×9mm×3mm、重さ340mgの淡黄色のプラスチック様の固まり。 面は比較的滑らかで、反対面は僅かに凹凸していた。 メタクリル酸樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。 メタクリル酸樹脂の固まりと推定された。
チョコレート	チョコレート箱の中に異物が入っていた。 	外観 顕微鏡 赤外KBr法 結果	大きさ25mm×20mm、厚さ3mm、重さ140mg。淡黄色の細い繊維状の固まり。 太さ30～120μmの透明な繊維と、所々に樹脂の融けて固まった半透明の球状の固まりや、淡褐色の不定形の固まりを認めた。 エチレン-酢酸ビニル樹脂と同様な吸収スペクトルを認めた。 エチレン-酢酸ビニル樹脂の繊維状及び不定形の固まりと推定された。
ポテトサラダ	ポテトサラダを皿に移し変えたとき、飛び出していた異物を見つけた。 	外観 顕微鏡 赤外KBr法 ヨウ素デンプン反応 光学透過顕微鏡 結果	大きさ42mm×10mm、重さ1.5g及び10mm×10mm、重さ0.5gの淡褐色の弾力のある固まり2個。 切片を観察すると、全体に植物細胞が認められた。 植物と同様な吸収スペクトルを認めた。 白色部分はヨウ素デンプン反応が陽性であった。 ヨウ素デンプン反応を示したところは、多数のデンプン粒を認めた。 多数のデンプンが含まれた植物の破片と推定された。
みかんシラップづけ(缶詰)	シラップが白く濁っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 赤外KBr法 結果	みかんのシラップの白濁を認めた。 針状の細かな結晶を多数認めた。 シラップから遠心分離をして得られた白色物質はヘスペリジンと同様な吸収スペクトルを認めた。 みかんの果肉に含まれるヘスペリジンがシラップに溶け込み、白濁したものと推定された。
だんご詰め合わせ	硬い固まりが入っていた。 	外観 ヨウ素デンプン反応 光学透過顕微鏡 結果	直径6mm、重さ0.07g。白色のやや硬い固まりを認めた。 陽性 米のデンプン粒を認めた。 米のデンプンの固まりと推定された。

【 食品添加物担当 】

アレルギー物質を含む食品の検査結果

現在、アレルギー物質(特定原材料)として卵、乳、小麦、そば及び落花生の5品目が指定されており、これらを含む食品には「アレルギー物質を含む」ことを表示するように義務付けられています。

平成20年1月に、健康福祉局食品専門監視班が卵や小麦によるアレルギーがある人のために製造された食品を、市内の小売店や製造所から収去し、また通信販売で売られているものは買上して、当所にて「卵」と「小麦」を検査しました。その検査結果を報告します。

1 「卵」の検査

卵不使用等の表示のある食品24検体(ケーキやクッキー等の焼き菓子、アイスクリームケーキ、クリーム、パン、パスタ及び惣菜)について検査を行いました。

検査方法は厚生労働省通知に準拠し、2種類のキットを用いてELISA法によるスクリーニング試験を行いました。その結果は、いずれの検体も陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 「卵」の検査結果

食品	検体数	陽性数
焼き菓子(ケーキ、クッキー)	14	0
アイスクーキ	2	0
クリーム	1	0
パン	3	0
パスタ(マカロニ、スパゲティ)	2	0
惣菜(ハンバーグ、肉団子)	2	0
合計	24	0

2 「小麦」の検査

小麦不使用等の表示のある食品12検体(ケーキやクッキー等の焼き菓子、アイスクリームケーキ、クリーム、めん及びスパゲティ)について検査を行いました。

検査方法は厚生労働省通知に準拠し、はじめに2種類のキットを用いてELISA法によるスクリーニング試験を行い、次に陽性(10ppm以上)となったものは、PCRを用いて確認試験を行いました(詳細は2003年7月号のアレルギー物質を含む食品の検査(その1)を参照ください)。

スクリーニング試験の結果は1検体(ケーキ)が陽性で、それ以外はすべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 「小麦」の検査結果

食品	検体数	陽性数
焼き菓子(ケーキ、クッキー)	11	1
アイスクーキ	2	0
クリーム	1	0
めん、スパゲティ	2	0
合計	16	1

スクリーニング試験が陽性となったケーキ1検体についてPCRによる確認試験を行ったところ、結果は陽性でした。

この検体について、健康福祉局を通じて製造所を管轄する自治体に対し、小麦使用の有無及び製造工程における小麦のコンタミネーションの可能性等を照会しました。調査の結果、このケーキには小麦は使用されていませんでしたが、同じ製造所で小麦を使用したケーキも作っており、製造工程中のコンタミネーションによるものと推定されました。

【 食品添加物担当 】

医動物検査

医動物室における平成20年1～3月の検査件数を表に示しました。

【行政検査:福祉保健センター、市場食品衛生検査所など行政からの依頼】

食品中異物検査が3件(チョコレートに混入したノシメダラメイガの幼虫 2件、ブタまんに混入したアシナガバチ、)種類同定検査が2件(クロバエ科の一種、コメノシメメイガの幼虫)でした。

【依頼検査:市民、事業者からの有料依頼】

ゴキブリに対する殺虫剤効力試験を実施中です。

【その他:感染症媒介昆虫等の市内における生息状況を把握するために行う調査や市民からの問い合わせ等】

中区、磯子区でライトトラップを用い、週に1回飛翔昆虫調査を行いました。1～3月中に27定点の調査を行いました。

また、中区の5飲食店、57定点で粘着式トラップによるチャバネゴキブリの生息状況調査を実施しました。1～3月中にのべ741ヶ所の調査を行いました。

検査試験項目	平成20年			平成19年4月	
	1月	2月	3月	～平成20年3月	
行政検査	種類同定検査	0	1	1	25 件
	食品中異物検査	1	0	2	12 件
	ウエストナイル熱蚊検査				
	採集地点数	-	-	-	396 定点
	個 体 数	-	-	-	9362 個体
依頼検査	種類同定検査	0	0	0	6 件
	食品中異物検査	0	0	0	2 件
	発生状況調査(ダニ類)				
	調査回数	0	0	0	5 件
	個 体 数	0	0	0	1 個体
	殺虫剤効力試験	0	0	10	10 件
その他	ゴキブリ調査	171	342	228	2771 カ所
	飛翔昆虫調査	8	10	9	162 定点
	その他の調査等	0	0		1014 件
	問い合わせへの回答	10	11	9	187 回

検査試験項目等 解説

種類同定検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった昆虫・ダニ類の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、その発生時期、発生場所、害の有無などに基づいて駆除の必要性、駆除方法、予防法などが明らかになります。

食品中異物検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった食品に混入した昆虫の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、混入経路を推定する一助となります。

ウエストナイル熱媒介蚊調査

健康福祉局の「ウエストナイル熱対策事業(18区)」及び中区の「区づくり事業」におけるウエストナイルウイルスの調査を行っています。種ごとのウイルス保有状況を調べるため、市内公園や港湾地区などで採集された蚊を分類同定します。

ダニ類等発生状況調査

市民からのかゆみや虫刺されの相談に基づいて、必要に応じて、住宅内でのダニ検査を行います。ダニ発生の有無を調べ、発生している場合には人を刺すダニであるかなどの検査を行います。

殺虫剤効力試験

新しく開発された防疫用殺虫剤の効力試験を、室内(基礎)および野外(実地)で行います。

ゴキブリ調査

実際に営業している飲食店におけるゴキブリの生態を把握するため、また殺虫剤の実地効力試験の予備調査として、ゴキブリ生息状況調査を行っています。

飛翔昆虫調査

ライトトラップを用い、時期ごとに大量発生している昆虫類等の発生状況や感染症媒介昆虫である蚊類成虫を中心とした飛翔昆虫の発生状況を調査しています。

その他の調査等

19年度は、雨水枡内での蚊の生息状況観察と幼虫に対する薬剤効果試験を行っています。

問い合わせ

市民の方などから相談のあった、昆虫・ダニ一般、昆虫媒介性疾病、殺虫剤などに関する不安、疑問に回答、助言、指導をします。



ノシメマダラメイガの幼虫

(詳しい生態等は横浜市衛生研究所ホームページ内「生活環境衛生情報 不快害虫に関する情報」をご覧ください)

【 医動物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 3月

今月のトピックス

麻疹は2008年1月から全数把握疾患となりました。市内ではすでに700例以上の報告があり、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中。

インフルエンザは終息傾向。

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:84か所、内科定点:55か所、眼科定点:15か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計183か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。

従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計139定点から報告されます。

平成20年2月18日から平成20年3月23日まで(平成20年第8週から第12週まで。ただし、性感染症については平成20年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成20年 週 - 月日対照表

第8週	2月18~24日
第9週	2月25~3月2日
第10週	3月3~9日
第11週	3月10~16日
第12週	3月17~23日

全数把握の対象

<麻疹>

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第12週(3/17~23)までの報告数は703例で、全国の報告数4662の15%と、人口に比して非常に多くなっています。年齢別では10代が過半数を占めています。また、約半数が予防接種未接種でした。2012年麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳~高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者には、春休みのうちに接種を受けてもらい、新学期に備えることが重要です。

横浜市の詳細については、「麻疹(はしか)の流行について(4)」

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf をご覧ください。

(日本は、2008年~2012年の5年間で、麻疹排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底。

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢への定期接種を実施。

<レジオネラ症>

横浜市では、1月に3例、2月に3例、3月に2例と、すでに8例の報告があり、このうち4例が、保土ヶ谷区内の温泉施設の利用者でした。昨年は28例とかなり多い報告がありましたが、1~3月は1例でした。全国では、第12週までの累計が172例となっています。

循環式浴槽やジャグジーを持つ温泉施設などをよく利用している異型肺炎患者の場合には、レジオネラ症の検索が重要と考えられます。

なお、衛生研究所と区福祉保健センターでは、原因究明と感染拡大の防止を目的に喀痰検査や施設調査、遺伝子検査を行っています。

その他の疾患については、横浜市感染症発生動向調査全数情報をご覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/report.html#zensu

定点把握の対象

<インフルエンザ>

今シーズンは、流行開始が例年に比べ非常に早かったものの、ピークは小さく、第6週以後減少が続き、第12週(3/17~3/23)の患者定点医療機関からの患者報告数は250人、定点あたり報告数は2.23で、終息傾向と考えられます。川崎市は2.19、神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.80と、どちらも横浜市より低い値でした。

全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかったAソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加してきました。また、2008年に入ってから、A香港型(AH3)が5例、B型が4例分離されています。

最新の情報については、

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf をご覧ください。

第10週の検体のうち、同一家族の3例からタミフル耐性ウイルス(Aソ連型)が分離されました。いずれも成人で、発症経過から家族内感染と考えられます。タミフル耐性株の流行を防ぐためには、症状が改善しても、タミフル内服中(一般的には5日間)は、会社や学校を休む必要があります。詳細は

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf をご覧ください。

<感染性胃腸炎>

年末にかけて多く報告され、1月以降は横ばいが続いていましたが、第8週からは増加し、第11週は定点あたり13.56と過去5年間と比べて最も高い値になりました。第12週は10.65と減少しましたが、川崎市は16.00、神奈川県(横浜、川崎を除く)は12.61と、どちらも横浜市より高くなっていますし、今後の動向には注意が必要です。ノロウイルス感染症だけでなく、ロタウイルス感染症も見られています。ロタウイルス感染症は、乳幼児に多く、発熱を伴い、けいれんなど重症になる場合があります。

病院、施設、学校等における集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

<RSウイルス感染症>

例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。今シーズンは、インフルエンザの流行がかなり早く始まりましたが、RSウイルス感染症は、12月に多く報告されました。1月に入ってから報告が続きましたが、第7週以降1人か2人の報告となり、第12週は0人でした。

病原体定点から採取された検体からは、衛生研究所で、12月に10例、1月に5例、2月に8例が、PCR法で確認されましたが、3月は検出されませんでした。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第2週以降増加傾向が続き、第11週は定点あたり2.63と、この時期としては昨年の第10週の2.68に次いで高い値になりました。第12週は2.15と少し下がりましたが、依然として過去に比べ高い値になっています。瀬谷(9.0)、磯子(6.0)、都筑(4.3)で、警報開始レベルの4を超えています。川崎市は2.19、神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.01と、どちらも横浜と同様多くなっているため、今後の動向に注意が必要です。

<マイコプラズマ肺炎>

3か所の基幹定点医療機関からの報告に基づいているため、総数で比較しました。平成18年は年間92人とかなり多い報告がありましたが、昨年は37人でした。平成20年に入り、報告が目立ち、特に第9、10、11週は8人ずつの報告が続きました。第12週までの累計は36人と、昨年の同時期の3倍でした。

全国でも、昨年に続き、今年もかなり多く報告されており、今後の動向に注意が必要です。

平成20年 週 - 月日対照表

第8週	2月18~24日
第9週	2月25~3月2日
第10週	3月3~9日
第11週	3月10~16日
第12週	3月17~23日

< 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

2 月は、1 月に比べて、男性の性器クラミジア感染症が減少した以外は、増加しています。また、15～19 歳の若年については、男性は報告がありませんでしたが、女性は、性器クラミジア感染症で 4 人、性器ヘルペス感染症で 1 人、尖圭コンジローマで 1 人と、目立ちました。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8 か所、インフルエンザ(内科)定点:5 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院)定点:3 か所、の計 17 か所を設定しています。検体採取は、小児科定点 8 か所を 2 グループに分け、4 か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

< ウイルス検査 >

2008 年 3 月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点 39 件(鼻咽頭ぬぐい液 38 件、糞便 1 件)、内科定点 12 件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点 2 件(髄液)、眼科定点は 2 件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎 25 人、発疹 6 人、発熱のみ 5 人、胃腸炎 2 人、関節痛 1 人、内科定点は気道炎 7 人、関節・筋肉痛 3 人、胃腸炎 1 人、発熱および頭痛 1 人、基幹定点は脳炎・脳症疑い 1 人、無熱性けいれん群発 1 人、眼科定点は角結膜炎 2 人でした。

4 月 10 日現在、小児科定点の気道炎患者 3 人、発熱のみの患者 1 人からインフルエンザウイルス AH1 型、気道炎患者 1 人、発熱のみの患者 1 人からインフルエンザウイルス AH3 型、気道炎患者 1 人からインフルエンザウイルス B 型が分離されています。また、内科定点の気道炎患者 4 人、関節・筋肉痛の患者 1 人からインフルエンザウイルス AH1 型、気道炎患者 1 人、関節・筋肉痛の患者 1 人、発熱および頭痛の患者 1 人からインフルエンザウイルス AH3 型、気道炎患者 1 人からインフルエンザウイルス B 型が分離されています。

これ以外に、PCR 検査では、小児科定点の気道炎患者 8 人からヒトメタニューモウイルス、発疹患者 4 人、気道炎患者 3 人から麻疹ウイルス、気道炎患者 2 人と内科定点の気道炎患者 1 人から RS ウイルスの遺伝子が検出されています。RS ウイルスの遺伝子が検出された小児科定点の気道炎患者 2 人からはインフルエンザウイルス AH1 型と B 型が分離陽性でした。また、基幹定点の脳炎・脳症疑いの患者からヒトヘルペスウイルス 6 型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

< 細菌検査 >

3 月の感染性胃腸炎関係の受付は 6 菌株で毒素原性大腸菌が 1 件検出されました。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は 9 件で A 群溶血性レンサ球菌が 7 件から検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課 ウイルス担当 】

感染症発生動向調査における病原体検査 3月

感染性胃腸炎 2008年3月

検査年月	3月		2008年1～3月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	6		25	
菌種名				
サルモネラ				
腸管病原性大腸菌				
毒素原性大腸菌	1		1	
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出	5		24	

呼吸器感染症等 2008年3月

検査年月	3月		2008年1～3月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	9		19	
菌種名				
A群溶血性レンサ球菌	T1		1	
	T3	1	1	
	T4	1	4	
	T6			
	T12	3	5	
	T13	1	1	
	T25	1	3	
	T28		2	
	T型別不能			
B群溶血性レンサ球菌				
G群溶血性レンサ球菌				
インフルエンザ菌				
パラインフルエンザ菌				
黄色ブドウ球菌				
髄膜炎菌			1	
インフルエンザ菌				
不検出	2		4	
			0	

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【細菌担当】

由来別病原菌検出状況 3月

2008年3月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、 喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、 飲料水等	
	3月	1-3月	3月	1-3月	3月	1-3月
コレラ O - 1						
O - 1以外			3	4		
赤痢菌 A						
B						
C						
D		1				
その他						
チフス菌		1				
パラチフスA菌		1				
その他のサルモネラ						
O4群						
O7群			1	1		
O8群						
O9群						
O3, 10群						
その他						
腸管病原性大腸菌						
毒素原性大腸菌	1	1				
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌	1	3				
腸管凝集性大腸菌						
腸炎ピブリオ						
黄色ブドウ球菌	1 *	3				
カンピロバクター	16 **	17				
ウェルシュ菌		6				1
A群溶血性レンサ球菌	7	17				
B群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ菌		1				
その他		1				
取り扱い件数	93		9		15	

* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

** *C. jejuni*による3食中毒事例から分離された菌株

【細菌担当】

残留農薬検査(平成19年度10月～3月分)

残留農薬検査について

当所では、市内に流通する農作物や食肉等の食品に残留する農薬について検査を行っています。平成18年5月29日より、残留農薬等の規格基準についてポジティブリスト制度が施行されました。現在では有機リン系農薬、有機塩素系農薬、ピレスロイド系農薬及び有機窒素系農薬の約90項目について検査を行っています。

1 国内産農作物

食品専門監視班から平成19年10月、11月及び平成20年2月に搬入されたきゅうり、ごぼう、トマト、なす、ねぎ、ピーマン、みかん、いちご各3検体及びにんじん2検体の計26検体について残留農薬検査を行い、その結果を表に示しました。きゅうり、トマト、ねぎ、ピーマン、いちごからは各1検体から複数の農薬が検出されていますが、いずれも残留濃度は低いものが多く、残留基準値を超えるものはありませんでした。また、クロルフェナピルやクレソキシムメチルは複数の農作物から検出されており、よく使用されている農薬であると考えられました。

2 輸入農作物

食品専門監視班から平成20年2月に搬入されたパプリカ4検体について残留農薬検査を行い、その結果を表に示しました。パプリカ1検体からクロルフェナピル0.25ppm、テトラコナゾール0.50ppm、テブフェンピラド0.09ppmの3種の農薬が検出されましたが、残留基準値を超えるものはありませんでした。パプリカについては上半期(検査情報2007年11月号掲載)にも複数の農薬が検出されており、今後も調査を続けていく必要があると考えられます。

3 市内産野菜

横浜市内で生産されているいわゆる『横浜ブランド』農作物について、今年度は重点的に残留農薬検査を行いました。食品専門監視班から平成19年11月、12月及び平成20年1月に搬入された市内産野菜(こまつな4検体、かぶの葉、かぶの根、キャベツ、だいこんの根、にんじん、ねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう各3検体の計28検体)について検査を行った結果を表に示しました。その結果、いずれの農薬も検出されませんでした。

4 市民要望枠

横浜市においては、各区福祉保健センターがリスクコミュニケーションやアンケート調査等を行っており、それにより把握した市民からの要望を検査に反映させています。今年度はパン中の残留農薬についての検査要望がありました。パンの原料である小麦粉の多くは海外からの輸入品であり、その輸送中に使用するポストハーベスト農薬に市民の高い関心が集まっています。そこで、平成20年2月に食パンとその原料である小麦粉について検査を行いました。その結果、いずれの農薬も検出されませんでした。

表 残留農薬検査結果

(H19年10～H20年3月)

農作物	産地	検査 検体数	検出数	農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
国内産農作物						
きゅうり	国産	3	1	クロルフェナピル	0.02	1
			1	プロシミドン	0.07	5
ごぼう	国産	3	0			
トマト	国産	3	1	フルトラニル	0.05	2.0
			1	ペンコナゾール	0.01	0.2
なす	国産	3	1	ピリプロキシフェン	0.10	1
ねぎ	国産	3	1	フルトラニル	0.02	2.0
			1	クレソキシムメチル	0.05	2
ピーマン	国産	3	1	フェンプロパトリン	0.27	2
			1	クロルフェナピル	0.02	1
みかん	国産	3	1	クレソキシムメチル	0.02	2
いちご	国産	3	1	クレソキシムメチル	0.20	5
			1	マイクロブタニル	0.04	1.0
にんじん	国産	2	0			
輸入農産物						
パプリカ	韓国、ニュー ジーランド	4	1	クロルフェナピル	0.25	1
			1	テトラコナゾール	0.50	1
			1	テブフェンピラド	0.09	0.5
市内産野菜						
こまつな	横浜市	4	0			
かぶの葉	横浜市	3	0			
かぶの根	横浜市	3	0			
キャベツ	横浜市	3	0			
だいこんの根	横浜市	3	0			
にんじん	横浜市	3	0			
ねぎ	横浜市	3	0			
ブロッコリー	横浜市	3	0			
ほうれんそう	横浜市	3	0			
市民要望枠						
食パン	国産	1	0			
小麦粉	アメリカ	1	0			

【 微量汚染物担当 】

衛生研究所WEBページ情報(19年度3月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を市民にわかりやすく提供しています。

今回は、2008年2月のアクセス件数、アクセス順位及び2008年3月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (2008年2月)

2008年2月の総アクセス数は、257,921件でした。主な内訳は、感染症58.4%、食品衛生21.8%、保健情報5.8%、生活環境衛生1.7%、検査情報月報5.0%でした。

(2) アクセス順位 (2008年2月)

2月のアクセス順位(表1)は、「パラチオン」が第1位でした。

これは、中国製冷凍餃子による中毒事件が1月末にマスコミ報道された影響と思われる。

2位が「マイコプラズマ肺炎について」、3位が「EBウイルスと伝染性単核症について」でした。

マイコプラズマ肺炎が今年も流行の兆しを見せています。

全国的には2007年ほどでの流行ではありませんが、定点あたりの報告数は過去10年間において、2番目に高い値で推移しています。

冬の感染症である「感染性胃腸炎」に関する記事が4位、「麻疹(はしか)について」が第6位に入りました。

表1 2008年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	パラチオン	12,517
2	マイコプラズマ肺炎について	7,417
3	EBウイルスと伝染性単核症について	6,650
4	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	6,348
5	食品衛生情報 ちょっと専門的なデータシート	4,849
6	麻疹(はしか)について	4,575
7	サイトメガロウイルス感染症について	4,014
8	大麻(マリファナ)について	3,909
9	性器クラミジア感染症について	3,497
10	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	3,201

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2008年3月)

2008年3月にホームページのお問い合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、7件でした(表2)。

表2 2008年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
タミフル耐性インフルエンザウイルスについて	2	衛生研究所
食用赤色104号と105号について	1	衛生研究所
麻しん緊急対策について	1	衛生研究所
突発性発疹の英訳について	1	衛生研究所
いちごの洗い方について	1	衛生研究所
新生児スクリーニングについて	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2008年3月)

2008年3月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 2008年2月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月3日	感染症に気をつけよう	追加
3月5日	アデノウイルス感染症について	更新
3月7日	英字略語集(ABC順)	更新
3月12日	野兔病について	更新
3月13日	麻しん(はしか)の流行について(4)	追加
3月21日	ポツリヌス症について	更新
3月21日	横浜市におけるインフルエンザ等の流行情報(その16)	追加
3月31日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

[感染症・疫学情報課]